

4.5 植物

施設の存在に伴う植物への影響を把握するために、新病院の状況、環境の保全のための措置の実施状況の調査を実施した。

4.5.1 施設の存在に伴う植物への影響

1) 調査項目

調査項目は、下記のとおり、保全すべき種の状況及び環境の保全のための措置の実施状況とした。

(1) 新病院の状況（配置、高さ、形状等）

(2) 環境の保全のための措置の実施状況

2) 調査地点・地域

調査地点・地域は、計画地内とした。

3) 調査期間

調査期間は、供用開始後、適宜とした。

4) 調査方法

調査方法は、表 4.5-1 に示すとおりである。

表 4.5-1 新病院の状況に関する調査方法

調査項目	調査方法
新病院の状況	写真撮影等による現地確認及び関係資料の整理による方法とした。
環境の保全のための措置の実施状況	

5) 調査結果

(1) 新病院の状況（配置、高さ、形状等）

対象事業の実施状況に関しては、完成した新病院の配置・高さ・形状が計画どおりとなっており（第2章 2.6 参照）、予測時の条件と変更がないことが確認された。

(2) 環境の保全のための措置の実施状況

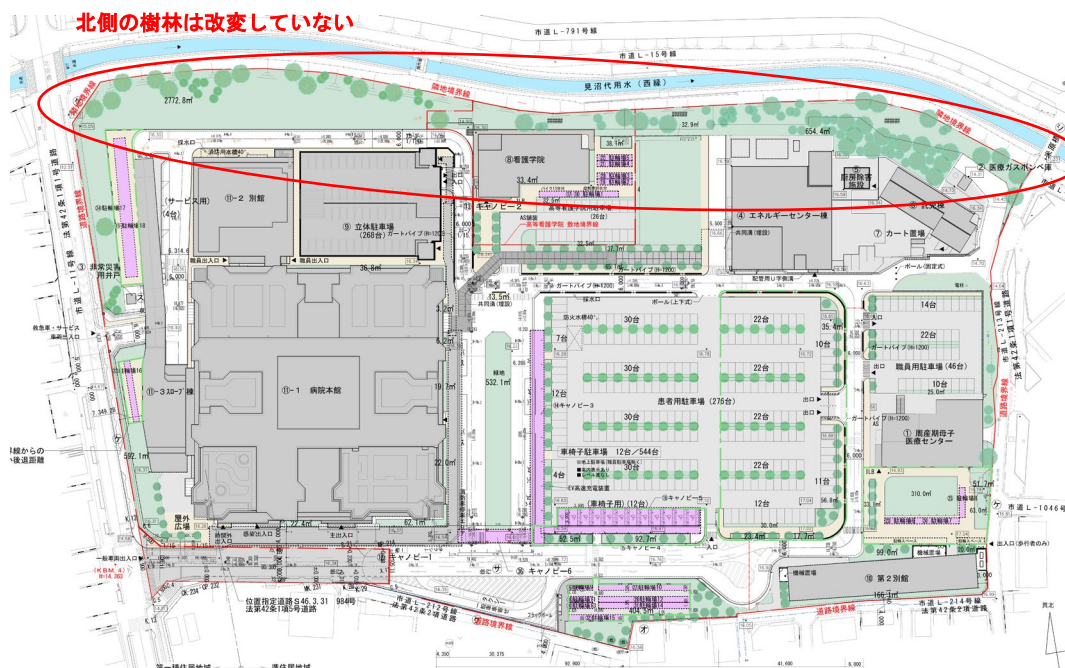
a) 環境の保全のための措置の実施状況調査結果

供用後における環境の保全のための措置の実施状況は、表 4.5-2 に示すとおりである。

表 4.5-2 供用後における環境の保全のための措置の実施状況

影 響	検討の 視点	評価書に記載した環境の保全 のための措置	環境の保全のための措置の実施状況
生育環境の 直接的改変	改変面積の低減	・ 既存の樹林の改変を極力抑制・低減し、植物全般の生育環境の保全を図る。	・ 計画地の北側には、保全すべき群落に該当するイヌシデ林が既存の樹林として存在する。既存樹林は改変しないこととした（図 4.5-1）。 ・ 資料 1 は、建築物配置図及び既存樹林の改変しない範囲。
水分条件の 変化	影響の低減		
日照の変化	影響の低減		
生育環境の 直接的改変	改変面積の低減	・ 計画地において、可能な限り在来種を用いて緑化を行う。	・ 計画地において、可能な限り在来種を用いて緑化を行った。（「(a) 在来種を用いた緑化」参照。）また、植樹した樹種の管理状況については、ナラ枯れ及びクビアカツヤカミキリの被害状況をモニタリングする等、適切な管理に努めている。（「(b) 植樹した樹種の管理状況」参照。）
水分条件の 変化	影響の低減		
日照の変化	影響の低減		

資料 1 建築物配置図及び既存樹林の改変しない範囲



事後調査（工事中その 2）の結果、施設稼働後の計画地周辺において、キンラン、タコノアシ及びカワヂシャ等の複数の希少種の生育が確認されていることから、これらの種の生育に施設の稼働が大きな影響を与えておらず、植物の生育環境が保全されていることが推定される。そこで、環境保全措置として、計画地の北側の樹林及び計画地外について、供用後に新たに改変を行わない措置を講じ、希少種などの生育環境の保全を図っている。

図 4.5-1 環境の保全のための措置の実施状況写真・資料等

(a) 在来種を用いた緑化

緑化で植樹した樹種は表 4.5-3～表 4.5-4 に、植樹した位置は図 4.5-2 に示すとおりである。

高木の樹種については、ケヤキ、ネズミモチなど 201 本、低木については、ツツジ 535 本を用いて、緑化を行っている。

在来種としての樹種は、宮脇昭、奥田重俊編著「日本植物群落図説」（至文堂）を参照し、さいたま市付近に分布すると考えられる、人が影響を加える以前の潜在的植生である「自然植生」と里山自然のように人の影響を受けながら存続している「代償植生」に分類される植物群落を組成する種であるものとして定義した。

該当する植物群落は、自然植生としてヤブコウジースダジイ群集、シラカシ群集、代償植生としてクヌギ-コナラ群集とした。

高木については、全部で 201 本植樹しているが、このうち 107 本が自然植生と代償植生に分類される種であることが確認できた。在来種とされる高木は、植樹した高木のうち 53.2% と過半数を占めており、可能な限り在来種を用いた緑化を行った結果となっているものと判断できる。



表 4.5-3 緑化により植樹した樹種（高木）

	樹種	本数（本）	群落名
自然植生	ヒイラギ	2	ヤブコウジースダジイ群落
	ケヤキ	20	シラカシ群落
	シラカシ	1	シラカシ群落
	コナラ	6	シラカシ群落
	ミズキ	7	シラカシ群落
	ネズミモチ	61	シラカシ群落
代償植生	イヌシデ	10	クヌギ・コナラ群落
	小計	107	－
－	イチョウ	1	－
	ヒノキ	4	－
	カイヅカイブキ	13	－
	ヒバ	1	－
	クスノキ	2	－
	ギンヨウアカシア	2	－
	ハリエンジュ	5	－
	ムクノキ	6	－
	シダレザクラ	1	－
	サトザクラ	18	－
	ソメイヨシノ	9	－
	ウメ	7	－
	モモ	1	－
	ナナカマド	1	－
	イロハモミジ	1	－
	アオギリ	1	－
	ハナミズキ	3	－
	モッコク	7	－
	シマトネリコ	3	－
	キンモクセイ	4	－
	イヌツゲ	1	－
	ソヨゴ	2	－
	クロガネモチ	1	－
	合計	201	－

表 4.5-4 緑化により植樹した樹種（低木）

樹種	本数（本）
ツツジ	535
合計	535

(b) 植樹した樹種の管理状況

植樹した樹種のうち、ナラ枯れやクビアカツヤカミキリの被害が想定されるコナラ、シダレザクラ、サトザクラ、ソメイヨシノ、ウメ及びモモについて、モニタリングを行い、被害状況を確認している。現時点では、ナラ枯れ及びクビアカツヤカミキリの被害の確認はない。

6) 予測・評価結果と事後調査結果の比較及びその考察

環境影響評価書の事後調査計画では、事後調査において、施設の存在に伴う植物への影響は、対象事業の実施状況及び環境の保全のための措置の実施状況の確認により予測結果の妥当性を把握することとされている。

対象事業の実施状況については、完成した新病院の配置・高さ・形状は予測時の計画どおりの状況となっており（第2章 2.6 参照）、予測時に想定された日照変化・水分条件変化の範囲内となっていることが確認された。

また、計画した環境の保全のための措置はすべて実施していることから、施設の存在に伴う植物への影響は、事業者により実行可能な範囲でできる限り低減が図られたと評価する。